

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名 **一般社団法人MIT**

上位関連計画にみる地域の将来  
 ○第2次対馬市総合計画のビジョン「自立と循環の宝の島つしま」では、2025年までにみんなが主役になる希望の島、地域経済が潤い続ける島、支え合いで自立した島、自然と暮らしが共存する島を目指している。  
 ○現在の人口:28,784人、将来:26,700人(2025年)、20000人(2045年)(対馬市総合戦略)

②具体的な取組  
 ●「トラヤマの杜」認定と多様な主体による森林づくりを促進するツシマモリビト協同組合設立(仕組みづくり)  
 ●ESD×レスポンスブル・ツーリズムの推進によるツシマモリビトの確保と育成(ひとづくり)  
 ●トラヤマの杜における多様な森林資源の高付加価値化に向けたビジネスモデルの構築(なりわいづくり)

①ありたい未来  
 ツシマヤマネコをはじめとする希少な生物たちと人の暮らしが共生する豊かな対馬の森林として、対馬の森の30%が共有地・保護区として認定され、多様な森づくりの担い手(ツシマモリビト)が創意工夫して森林の保全と持続可能な利用を行い、対馬の地域経済の好循環と森林生態系の回復、そして人々の暮らしの豊かさが増加している。市民一人ひとりが、対馬の森を愛し、森を守るツシマモリビトになっている。長期的には、森づくり(森里海づくり・SDGs)の担い手を育成する専門学校の立ち上げも視野に入れていきたい。ツシマモリビトが森林資源を有効にかつ高付加価値をつけて販売する出口が増えることで、対馬の森に関わる産業やビジネス、趣味や交流の機会を新たに生まれ、森林資源を活用した地域経済の好循環と森林生態系の回復が図られている。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
			(2021年4月)	(2021年度末)	(2021年度末)	
環境	トラヤマの杜	場所	0	2	2	箇所
	トラヤマの杜	面積	0	5	6	ha
経済	トラヤマの杜の産品	売上	0	0	0	万円
	トラヤマの杜のツアー	参加人数	0	20	20	人
社会	ツシマモリビト協同組合設立	設立したかどうか	0	0	0	

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
			(2021年4月)	(2021年度末)	2030-2050年度		
環境	トラヤマの杜として保護された土地	面積	0	6	2030年	500	ha
経済	トラヤマの杜の産品	売上	0	0	2030年	1億	円
	トラヤマの杜のツアー	参加人数	0	20	2030年	10,000	人/年
社会	ツシマモリビトの数	ツシマモリビト協同組合の組合員	0	0	2030年	1,000	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

非経済林とされている広葉樹の森を「トラヤマの杜」として登録し、その場所や面積を増やしていく。その動きを推し進めるツシマモリビト協同組合が設立され、その杜を保全・利用する組合員(ツシマモリビト)が増えていく。トラヤマの杜では、森林の保全と持続可能な利用を行うことで、新しい雇用やビジネス(経済)、教育・憩いの場(社会)が生まれていき、ツシマモリビトが育っていく。ツシマモリビトが対馬での暮らしの豊かさを実感するとともに、トラヤマの杜での活動を展開する中で、ツシマモリビト同士の交流が生まれ、小さな社会が再構築されていく(社会)。トラヤマの杜でのツシマモリビトの活動が広がるほど、森が保全・利用されていき、森林生態系サービスも向上していき(環境)、そのサービスを受けた対馬市民の経済的な豊かさや心の豊かさも向上していく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください